

●教育基本法(第2条)との関連

項目	検討の観点	「新高等保健体育 改訂版」の特色	具体例
第1〜5号	教育基本法第2条各号に示された教育の目標に対し、どのような配慮がなされているか。	教育基本法第2条に示された教育の目標(第1〜5号)に基づき、生徒たちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、教材内容や学習活動を適切に選定、配列しました。	教科書全体
第1号	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うための工夫がなされているか。	保健編第1章では、喫煙や飲酒による健康問題の防止や、薬物乱用の防止のためには、健全な価値観や規範意識の育成が重要であることを取り上げました。 保健編第1章では、精神疾患は、誰もが罹患する可能性のある身近な疾患であり、特に思春期に起こりやすいことを取り上げました。 体育編第1章では、スポーツの文化的価値について取り上げました。 体育編第2章では、体の動きはどのような仕組みで開始され、持続していくのかという効果的な動きのメカニズムについて取り上げました。 体育編第2章では、体カトレーニングの考え方および実践方法を取り上げました。	48〜49ページ、52〜55ページ 56〜57ページ 156〜157ページ 184〜185ページ 188〜191ページ
第2号	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うための工夫がなされているか。	保健編第1章では、健康の保持・増進のためには、健康に関する個人の適切な意思決定・行動選択が関わっていることを取り上げました。 保健編第1章では、生活習慣病の予防のためには、適切な運動や食事、休養および睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが重要であることを取り上げました。 保健編第3章では、思春期の自立しようとする気持ちについて取り上げました。 保健編第3章では、働くことの意義、働くことと健康との関連について取り上げました。 体育編第3章では、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方があることについて取り上げました。 体育編第3章では、スポーツに関わる様々な職種があることを取り上げました。 体育編第3章では、自分でスポーツライフを設計する課題を設けました。	20〜21ページ 34〜39ページ、42〜43ページ 85ページ 106〜111ページ 200〜201ページ 203ページ 207ページ
第3号	正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うための工夫がなされているか。	保健編第1章では、健康を保持・増進するための環境づくりに対して個人の主体的な関わりが重要であることを取り上げました。 保健編第1章では、喫煙や飲酒、薬物乱用は本人のみならず、周囲の人の健康や社会にも影響を与えることを取り上げました。 保健編第1章では、心の不調や精神疾患からの回復には、自分だけで悩まず助けを求めることが大切であることとともに、周囲からの声かけが重要であることを取り上げました。 保健編第2章では、安全な社会づくりのために、特に支援が必要な人に対する高校生の主体的な取り組みについて取り上げました。 保健編第3章では、異性の心と体をよく理解し、相手の気持ちを尊重することの重要性について取り上げました。 保健編第3章では、結婚生活と家族の健康に対する責任について取り上げました。 保健編第3章では、妊娠・出産において、生まれてくる子どもに対する親としての責任について取り上げました。 保健編第3章では、日本では、高齢者の暮らしや健康を社会全体で支え合う仕組みとして、介護保険制度が整えられていることを取り上げました。 保健編第4章では、食品の安全を守るために、生産者、製造者、消費者が果たす役割について取り上げました。 保健編第4章では、保健・医療サービスの活用について取り上げました。 保健編第4章では、健康に関する環境づくりに積極的に参加していくことが必要であることを取り上げました。 体育編第1章では、パラリンピックが共生社会の実現に大きな役割を果たしていることを取り上げました。 体育編第1章では、スポーツに求められる高潔さについて取り上げました。	16〜17ページ 48〜49ページ、52〜55ページ 56〜59ページ 68〜69ページ 88〜89ページ 92〜93ページ 96ページ 103ページ 128〜129ページ 132〜135ページ 142〜143ページ 161ページ 166〜167ページ
第4号	生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うための工夫がなされているか。	保健編第2章では、二輪車・自動車の運転時に必要な生命を尊重する態度について取り上げました。 保健編第2章では、けがや急病の際の応急手当が生命を救うことについて取り上げました。 保健編第4章では、自然環境の汚染が健康に影響を及ぼすことがあることを取り上げました。 保健編第4章では、環境保全のために個人と社会が果たす役割について取り上げました。 体育編第1章では、アンチ・ドーピング運動について取り上げました。 体育編第1章では、スポーツにおける環境破壊、環境保護について取り上げました。 体育編第2章では、運動やスポーツによるけがを取り上げ、どのように注意すべきかを紹介しました。	66〜67ページ 72〜81ページ 116〜119ページ 120〜123ページ 168〜169ページ 170〜171ページ 194〜197ページ
第5号	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うための工夫がなされているか。	保健編第4章では、日本国内や世界で行われている様々な保健活動や対策について取り上げました。 体育編第1章では、日本生まれのスポーツがあることを取り上げました。 体育編第1章では、オリンピックが世界平和の促進に大きな役割を果たしていることを取り上げました。 体育編第3章では、わが国や世界各国で行われている、様々なスポーツ推進について取り上げました。	140〜141ページ 158ページ 160〜161ページ 208〜211ページ

●学習指導要領との関連

項目	検討の観点	「新高等保健体育 改訂版」の特色	具体例
教科の目標	学習指導要領の教科の目標に基づいているか。	高等学校学習指導要領(保健体育科)に示された目標に基づき、保健や体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができるように、口絵、各章・各学習項目(学習のねらい、本文、側注、資料、事例、コラム、調べてみよう、考えてみよう)、特設、用語解説、付録で全体を構成しました。	教科書全体
	保健や体育の見方・考え方を働かせた学びを実現し、資質・能力を育むための工夫がなされているか。	表紙には、地域社会の中に様々な世代の人々を俯瞰できるようなイラストを配置し、表紙を眺めることで、生徒たちが生きている地域社会と保健体育科の学習の関係を思い浮かべ、保健や体育の見方・考え方を働かせながら学習を始めることができるよう工夫しました。	表紙
		口絵①②「私たちのヘルシータウン」、⑬⑭「私たちのスポーツタウン」では、空から学校や地域社会を俯瞰できるイラストを配置し、生徒たちが生活している地域社会では、多くの人々が健康とスポーツと関わりを広げ、深めることに気が付くきっかけとすることができるよう工夫しました。	口絵①②⑬⑭
		各学習項目の最後には、学習過程で身に付けた見方・考え方を確認したり、次の学びにつなげたり、実生活や実社会で活用したりすることができるように「考えてみよう」を設けました。	すべての学習項目のまとめ
資質・能力の育成	【知識・技能】 基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように配慮されているか。	保健体育の学習を通して、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し豊かなスポーツライフを継続するための基礎的・基本的な知識と技能の習得を目指し、質量ともに教科書の充実を図り、記述内容はもとより、コラムや学習内容を設けるなど、教科書全般にわたって配慮しました。	教科書全体
		学習指導要領に示された基礎的・基本的な知識・技能は本文で明瞭かつ簡潔に記述しました。	
		キーワードは、太字で示し、重要な事項を把握しやすいように配慮しました。	
		脇の余白に、必要に応じて補足説明を設け、より深い理解を促すよう配慮しました。	
		図表の下に補足説明を設け、資料を適切に読み取り、理解することができるように配慮しました。	
		適宜、コラムを設け、その項目の学習内容の理解を助けるための具体的な事例や、より深く学ぶための情報を盛り込むことで、学習者の興味・関心を広げる足がかりとなるよう配慮しました。	
		本時の学習課題を「学習のねらい」に明示し、知識・技能の確実な習得を図るようにしました。	
	【思考力・判断力・表現力等】 思考力・判断力・表現力等が育成できるように配慮されているか。	学習の要点や重要概念を見出しに掲げ、学習内容の確実な習得に役立てるようにしました。	80～81ページ
		学んだ知識・技能などを活用したり、確実に身に付けられるようにしたりするための実習課題(心肺蘇生法を実習しよう)を設けました。	
		学習者にとって難解な用語や、学習者の理解を深めるためにより詳しい説明が必要だと思われる用語については、保健編・体育編の編末に「用語解説」を設け、学習者の理解を助けるようにしました。	
資質・能力の育成	【思考力・判断力・表現力等】 思考力・判断力・表現力等が育成できるように配慮されているか。	各学習項目の最後のまとめでは、多様な活動(「考えてみよう」)を提示し、自らの思考の過程等を客観的に捉えたり、多様な考え方を理解したり、集団としての考えを形成したりして、思考力・判断力・表現力等を育成できるようにしました。	すべての学習項目のまとめ
		思考・判断・表現する学習活動の特設に設け、学習活動で身に付けた見方・考え方を働かせて、情報活用能力や問題発見・解決能力を育成できるように配慮しました。	教科書全体
		実生活に役に立つ内容や高校生に関心の高い内容を積極的に取り上げることで、学習内容を自分に引き寄せて思考することができるように配慮しました。	教科書全体
		自他の健康に関して、未知の状況に遭遇しても学んだ知識・技能を活用し、課題の解決に向けて様々な健康情報を収集・選択・判断・活用して対応できる思考力・判断力・表現力の育成を目指し、記述内容や図表、課題や特設ページを設けました。	教科書全体
	【学びに向かう力、人間性等】 学びに向かう力、人間性等が育成できるように配慮されているか。	学んだことを社会や生活に広げたり、深めたりすることができる特設を設けて、社会や生活との関わりの中で学んだことの意義を実感し、さらなる学びへの意欲を高めることができるように工夫しました。	保健編のすべての特設
		ヘルスプロモーションの考え方を生かし、個人の健康を支える環境づくりに自らも社会の一員として主体的に参加できるように配慮しました。	保健編全体
主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているか。	「考えてみよう」では、その学習項目での学習を踏まえて自他の生活を見直したり、社会の在り方を考えたりする活動を設け、学びを人生や社会に生かす力の育成に資するように工夫しました。	すべての学習項目のまとめ
		各項目の冒頭に「学習のねらい」を設け、その項目を学んだ結果として到達すべき目標を簡潔かつ具体的に示すことにより、学習者が目標を意識した上で主体的に学習に臨めるように工夫しました。	すべての学習項目の冒頭
		各学習項目の最後のまとめでは、多様な活動(「考えてみよう」)を提示し、言語活動やグループなどで対話する場面を多く設け、対話的・協働的に学ぶことができるように工夫しました。	すべての学習項目のまとめ
		本文に示された内容についてさらに掘り下げるために、関連する情報を学習者自身が主体的に調べる課題(調べてみよう)を各項目に設けました。	すべての学習項目の左ページ下欄
		「調べてみよう」の課題に取り組む際の参考となるウェブサイト(調べてみよう参考リンク集)につながる二次元コードを各章の扉等に掲載しました。	各章の扉
		本文の内容をさらに発展的に学ぶことができる特設の活動を随所に設けました。	すべての特設
		対話的な学習を促すために、巻頭に具体的な学習方法を例として示しました。	7～10ページ
主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているか。	各章の学習のまとめ・振り返りとして、学んだ内容を踏まえた課題解決学習を行うための「章のまとめ」のページを設けました。	62ページ、82ページ、114ページ、146ページ、172ページ、198ページ、214ページ

●今日の課題への対応

項目	検討の観点	「新高等保健体育 改訂版」の特色	具体例
すべての生徒が学びやすい紙面	特別支援教育に配慮されているか。	図表はクリーム色の地色とすることで本文とはっきり区別できるようにし、すべての生徒が見やすく読みやすい紙面レイアウトになるよう工夫しました。	教科書全体
		見出しや文章は簡潔かつ的確にまとめ、わかりやすい表現を心がけました。また、資料や写真・イラストを多用し、視覚的にも理解できるように配慮しました。	
	ユニバーサルデザインに配慮されているか。	視認性の高いユニバーサルフォントを採用し、可読性を高めました。	教科書全体
	個人差や人権、共生への配慮がなされているか。	人物イラストの男女比率やそれぞれの役割に偏りのないように配慮しました。また、固定的なイメージで性を区別しないように配慮しました。	教科書全体
		全体にわたり、高齢者や障害のある人、外国の人などとの関わりを写真やイラストで示して、多様な他者との共生・協働が大切であることを実感できるようにしました。	教科書全体
		性の多様性やアンチ・スティグマ、障害の社会モデルやソーシャルインクルージョン、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する記載をしました。	60～61ページ、89ページ、104～105ページ
国際理解・国際協力	オリンピック・パラリンピック教育について、適切に学習できるように配慮や工夫がされているか。	体育編第1章では、オリンピック・パラリンピックの歴史と意義、価値等が理解できるように工夫しました。また、オリンピックとパラリンピックのそれぞれの課題を取り上げ、生徒の国際理解が深まるようにしました。	160～163ページ
	持続可能な開発目標(SDGs)との関連に配慮がされているか。	循環型社会を目指した取り組みについて記載しました。	123ページ
		災害による上下水道の被害が多発していることから、人々の健康を支える社会基盤である安全な水の供給の重要性について記載しました。	122ページ、124～125ページ
		コラムにおいて、持続可能な開発目標(SDGs)について取り上げました。	140ページ
		関係する多様な立場の人々が協働することの重要性について記載しました。	143ページ
		コラムにおいて、持続可能な開発目標(SDGs)を取り上げて、保健体育(スポーツ)の学習と関連付けて関心を高めることができるように配慮しました。	171ページ
情報化社会への対応	教育のICT化への配慮がなされているか。	各章扉に二次元コードを掲載し、学習に関連する情報をウェブサイトで調べることができるように配慮しました。 教科書と同じ内容のデジタル教科書を発行します。また、動画資料や学習支援機能が充実したデジタル教科書(教材)を発行します。	各章の扉 デジタル教科書、デジタル教科書(教材)
	情報活用と情報リテラシーへの配慮がされているか。	すべての学習項目にICTを活用して関連情報を調べる「調べてみよう」という課題を設定しました。	教科書全体
		入手した情報の信頼性を評価する方法を記載しました。	21ページ
		健康食品による健康被害を防ぐためには、商品に関する情報を見極めることが重要であることについて記載しました。	130～131ページ
		「科学的根拠」に基づく医療について記載し、健康情報を見極めるポイントや活用する際に考慮すべきことについて記載しました。	138～139ページ
防災・安全教育	防災・安全教育の充実に向けた配慮や工夫がされているか。	地域のハザードマップを参考にして防災タイムラインを作成する課題を設けていることや、様々な情報源から災害被害を予測するための情報を入手することの重要性について記載しました。	70～71ページ
現代的な健康・運動課題への対応	現代の様々な健康課題や運動課題について配慮がされているか。	健康格差の問題について取り上げ、是正するための社会の取り組みについて記載しました。	17ページ
		人間関係が希薄になっているという現代において、人と人とのつながりが健康と関連しているということについて記載しました。	18～19ページ
		現代社会の在り方と感染症の問題や感染症予防のための社会や個人の対策について記載しました。	24～29ページ
		生活習慣病は、個人の生活習慣の問題が原因という狭い捉え方ではなく、個人を取り巻く社会のあり方による影響の大きさについて記載しました。	34ページ
		がんの予防や回復について記載するとともに、がんにかかってもその人らしく生きていくことができる社会の在り方について考える特設を設定しました。	44～47ページ
		思春期の年代の大きな健康課題である精神疾患について記載するとともに、心の不調や精神疾患があってもその人らしく生きていくことができる社会の在り方について考える特設を設定しました。	56～61ページ
		長時間労働による健康への影響について記載しました。	108～109ページ
		健康は、生涯を通じてつながるという見方について記載しました。	112～113ページ
		気候変動・地球温暖化による健康への影響について記載しました。	117ページ、141ページ
		健康食品による健康被害について記載しました。	127ページ、130～131ページ

●印刷、造本、重量

検討の観点	「新高等保健体育 改訂版」の特色	具体例
印刷は鮮明で、製本は長期使用に耐えられるか。	印刷は全ページカラー印刷です。鮮明でメリハリのあるデザインとしつつ、色彩は目にやさしい中間色を基調にしました。また、環境に優しいインキと再生紙を使用しています。	教科書全体
	製本は、3年間の使用にも十分耐えうる堅牢なものにしています。表紙には、強度を高め汚れを防ぐ加工を施しています。	
重量は生徒の身体的な負担に配慮されているか。	軽量で耐久性に優れた用紙を使用しており、ページ数増に伴う重量の増加を極力抑えるように配慮しました。	教科書全体